

おかげさまで、資料館は来館者10万人を達成しました。

富山県立イタイイタイ病資料館では、平成24年4月29日の開館から918日目（営業日）となります4月16日（木）に、10万人目の来館者を迎えました。

10万人目の来館者となられたのは、校外学習で来館された南砺市立平中学校1年生の皆さんでした。資料館では、10万人の達成を記念し、セレモニーを行いました。セレモニーでは、鏡森定信館長から平中学校の代表者2名に花束と記念品を贈呈し、資料館の10万人達成の節目を祝いました。

このセレモニーには、イタイイタイ病対策協議会の高木勲寛会長をはじめ、当日資料館や健康パークに来館されていた皆様にも参加いただき、とても賑やかなセレモニーとなりました。

鏡森館長が今回来館した平中学校の生徒の半数以上が小学生の時に来館していること、そして開館以来、多くの生徒が資料館を訪れている砺波地区の学校の中から節目来館者が選ばれたことに触れ、『大変感慨深い事であり、今後も公害学習の場としてだけでなく、郷土の歴史を学ぶ場としても資料館を活用して欲しい。』と挨拶されました。

これまで資料館にお越しくださいました来館者の皆様に厚くお礼申し上げます。これからも資料館が、イタイイタイ病の恐ろしさとその克服の歴史を知る学びの場になるとともに、健康と環境の大切さについて再認識していただくきっかけづくりの場となれるよう職員一同努力していきたいと考えています。今後とも資料館をよろしく願いいたします。



花束と記念品の贈呈



記念撮影

春の特別企画展『立ち上がった住民、取り戻した清流～リーダー小松義久と共に～』を開催しました。

4月25日（土）から5月6日（水・振休）まで、春の特別企画展として『立ち上がった住民、取り戻した清流～リーダー小松義久と共に～』を開催しました。

企画展では、イタイタイ病患者救済やカドミウム被害の克服に向けて取り組んでこられた被害者団体や支援団体の方々の活動状況をイタイタイ病裁判の時期を中心に、写真パネルで振り返る写真展を開催しました。今回展示した写真の約8割（56枚）が、初めての公開となりました。

4月29日（水・昭和の日）には、『まとめる力、支える力』と題して、鼎談を行いました。パネリストには、青島恵子萩野病院院長、高木良信イタイタイ病対策協議会副会長、社会保険労務士の荒木芳郎氏に当時を振り返っていただきました。荒木氏には、富山県社会保障推進協議会の役員として被害者団体を支援した経験を、高木副会長には、被害者の家族としてだけでなく、被害者団体の副会長として小松会長を支え、住民をまとめ闘ってきた経験をお話いただきました。

鼎談の中では、イタイタイ病の裁判にあたり、なぜ住民たちが一枚岩で巨大企業と闘い、勝訴できたのかその点についても触れられました。これまでご自身がイタイタイ病を経験し、裁判を闘ってこられたパネリストのお話しに、お集まりいただいた約40人の参加者の皆さんも真剣に聞き入っておられました。

最後に青島院長には、コーディネーターとして、お二人のお話を踏まえつつ、今回の鼎談をまとめていただきました。

今回の鼎談は、パネリストが経験されたイタイタイ病裁判から『まとめる力、支える力』について参加者の皆さんと共に考える機会となりました。

資料館では、今後もイタイタイ病患者の救済や裁判で活躍された、個人や団体に注目した企画展を開催していきたいと考えています。



写真パネルの展示



鼎談



館長の挨拶

多くの皆様のご来館、誠にありがとうございます。  
今後もより良い資料館づくりに努めてまいります。

